

書評漫才(SBR)グランプリの取組

～10代に新たな形で読書の魅力を伝える～



大阪市立中央図書館(大阪府大阪市) <http://www.oml.city.osaka.lg.jp/>

基本データ(数値はH25年現在)

住所	大阪市西区北堀江4-3-2
電話番号	06-6539-3300
人口(図書館が所在する市町村)	2,678,051人
職員数(うち有資格者数)	111人(96人)
蔵書数	1,975,975冊
登録者数	157,929人
年間貸出冊数(H24)	2,635,115冊

目的・趣旨

- ・「読書離れ」といわれる中高生に、読書に関心を持ってもらい、図書館に来館するきっかけを作る
- ・ヤングコーナー担当行事の来場者アンケートで要望の高かった「お笑いコンテスト」を図書館で行うにふさわしい形で開催する

取組概要

- お笑いコンテストに、本を紹介して競い合うビブリオバトルの要素を加味した催しを企画し、「書評漫才(SBR)グランプリ」と名付けて実施。持ち時間3分で1冊の本を漫才で紹介し、審査員団の評価した点数で優勝者を決定する。SBR:stand-up book reviewの略称
- 参加資格は10代のコンビ
- 評価基準は、①本を読みたくさせたか②紹介の面白さ③その他(見た目のインパクトなど)
- 審査員には、地縁や人脈を駆使して頼み込み、大阪府立上方演芸資料館学芸員、人気作家、地元洋菓子店の広報担当者、公務員漫才コンビ、市立高校校長と、多彩な面々に引き受けていただいた。



受賞者たちのようす

特徴

- 全国初の試みであるため、第1回については出場申込者数や来場者数を全く予想することができない催しであった。
- お固いイメージの図書館で「漫才コンテスト」という意外性もあり、マスコミが好意的に取り上げてくれた。
- チラシやポスターの配布は、図書館、学校のほか、芸人の養成学校や舞台関係の専門学校、高校生の全国漫才コンテスト地方予選会場でも行った。
- ホームページやツイッターを積極的に活用し、見本となるデモ動画の作成と公開、書評漫才ネタ作成の事例紹介、「じぇじぇ」「倍返し」などの流行語を盛り込んだツイートなどを行った。
- 第2回開催については、関連図書展示「芸人本100冊、だいたい。」と、大阪府立上方演芸資料館の協力による、資料館所蔵資料の展示を図書館で行った。
- 出場者は本とお笑いが好きな人が多かったが、日常的に図書館を利用している人は少なく、普段来館しない層に働きかけることができた。
- アンケート結果は概ね好評で、出場者、来場者ともに次回開催を希望するものが多かった。



中学生も…



小学生も…

取組の成果と今後について

・出場者数は第1回の高中生7組から第2回は小学生3組、中学生4組、高校生6組の計13組、来場者数は第1回の90名から第2回は250名に増加した。

- ・来場者の声:「大阪らしい催しでよかった」「これはもう、新たな地平を開く文化です」
- ・出場者の声:「すごく緊張したけど、とても楽しかった」「大勢の前で出来て良かった」
- ・今後は当イベントの更なる周知とともに、10代の人に読書の楽しさを伝える催しに取り組んでいきたい。